

佛教大学・西松地所株式会社協同事業 『「まち、人、文化」を繋ぐ』プロジェクト

プロジェクトの基本情報

指導責任者：安藤潤（社会学部教授）

活動地域：宮津市、宇治市、福知山市、京都市

課題：府域の観光資源の発掘と発信（観光客が一か所に集中するオーバーツーリズムの解消）

学生：社会学部を中心とした15名

連携先：西松地所株式会社（観光業界としてのご意見をいただきながらイベントを共同で企画）、
西陣工房 就労継続支援B型（伝統工芸である京くみひも体験コーナーにて協力）

京都市以外の府域に
もっと人気になるべき
観光資源がたくさん
あるはず！

フィールドワークレポート



SPOT 1 京都市内の現状

観光客が京都市内に一極集中している中、錦市場では歩行者が歩ける道の幅が狭く、左側通行を呼びかけるなどの対策を取る必要を感じました。混雑のためイートインスペースを増やすなどの対策も効果的だと思います。



SPOT 2 宮津市

宮津市役所の方に観光被害の現状について伺いました！繁忙期になると特にゴミが増加してしまうため、パークアンドクルーズの船を出したり、ボランティアでゴミを清掃したりして行政としての対策を行っているそうです！



SPOT 3 宇治市

お茶の種類は沢山ありますが、実は全て同じ葉で出来ていて、製造過程の違いで味や香りも変わることには驚きました。また、淹れるときのお湯の温度やお茶の注ぎ方でも美味しさが変わるというのは興味深かったです！



SPOT 4 福知山市

福知山の丹後二俣紙の魅力は、和紙の原料である楮から栽培されているところです。楮は輸入品に頼る和紙が多い中、丹後二俣紙は原料から生産することで、一年を経て天塩にかけて製造されているところが魅力です。



府域の魅力を発信する

「京の伝統工芸ワークショップ」を12月1日（日）に開催！

京都市内に観光客が一極集中しており、市外と市内では2.904万人もの観光客数の差があります。そのため、市外の府域にある伝統文化や魅力をもっと多くの人に知ってもらい、府域の観光客増加と市内のオーバーツーリズム解消を図るため今回のイベント開催に至りました。

当日は、和紙やお茶をはじめとした各地の伝統文化をワークショップ形式でご紹介し、日本人だけでなくドイツやインドネシアからの観光客など多くの方に府域の魅力に触れていただきました。



チラシは英語・日本語の
2言語で作成！
市内の日本語学校や
宿泊施設等に設置を
お願いしました。

イベントを振り返って



学生と佛教大学社会連携センター、西松地所株式会社（ホテル）の方々、西陣工房の3者が協働して実現したイベントが、合計約200名の方に来ていただけるほどの規模になった。さまざまな立場のご意見を取り入れ、より効果的に府域の魅力に触れていただけた。



韓国語や中国語の言語を使ったポスターも作ったほうが、より多くの方をターゲットにできたかもしれない。